

29年11月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 11月1日～ 29年11月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/11月	12月	30/1月
入荷動向	国産材製材品	△ 21.4	△ 21.4	△ 14.3
	外材製材品	△ 35.7	△ 21.4	△ 14.3
	その他	0.0	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	14.3	0.0	0.0
	外材製材品	△ 21.4	△ 14.3	△ 14.3
	その他	0.0	△ 8.3	△ 8.3
在庫動向	国産材製材品	△ 21.4	△ 14.3	△ 14.3
	外材製材品	△ 21.4	0.0	0.0
	その他	8.3	8.3	8.3

・国産材、外材製材品入荷動向は3カ月連続減少。その他は3カ月連続横ばい推移。

・国産材製材品の販売動向は11月の増加から、12月、1月は横ばいに。外材製材品は3カ月連続減少。その他は11月の横ばいから12月、1月は減少に。

・国産材製材品の在庫動向は3か月連続減少。外材は11月の減少から12月、1月は横ばいに。その他は3カ月連続増加。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		29/11月	12月	30/1月
スギ	柱角 KD10.5×3	14.3	7.1	7.1
	柱角 KD12×3	7.1	0.0	0.0
	通し柱 12×6	12.5	0.0	0.0
	桁角	7.1	0.0	0.0
	母屋角	14.3	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	14.3	0.0	0.0
	加工板	8.3	0.0	0.0
	ヌキ	7.1	0.0	0.0
平割	0.0	0.0	0.0	
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	28.6	14.3	7.1
	柱角 KD12×3	28.6	14.3	7.1
	土台角 10.5×4	28.6	14.3	7.1
	土台角 12×4	28.6	14.3	7.1
	通し柱 12×6	8.3	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	33.3	25.0	16.7	
米マツ割物	25.0	16.7	16.7	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	8.3	0.0	0.0	

・スギ製材品の価格動向は保合。カラマツ土台角も保合。

・ヒノキは柱角、土台角とも製材品不足から強含み。

・外材製材品は米マツ平角・割物とも強含み。タルキは北洋エゾマツ、北洋アカマツとも保合。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・国産材の入荷順調。外材は米ツガ、WWの一部は入荷かなり悪い。LVLも入荷悪い。10月に記念市があった反動のあるが、動きはやや悪い。在庫の無いものもあるが、先を見て多く買ったものもあるので総量は変わらず(関東)。
- ・入荷動向は、スギ、ヒノキは3mの10.5cm柱材を筆頭に12cm角も品数が少ない。タルキと胴縁も少ない。外材は米マツ、米ツガ、WWは仕入れ量を抑えている。販売動向は、柱、土台、タルキ、胴縁は入荷即完売状態だが、その他の販売は良くない。外材は様子見状態が続く。市売内在庫は少なくなっている印象。会社によっては内地材の在庫を増やしている(中部)。
- ・国産材は過不足なく入荷している(中部)。

(価格動向)

- ・単価 スギ柱角 (KD10.5cm) 60,000円/m³、(KD12.0cm) 60,000円/m³、スギ桁角(東北材) グリーンラフ 40,000円/m³、母屋角(東北材) (二等) 30,000円/m³、スギタルキ(東北材) 45,000円/m³、スギ間柱 特(KD) 60,000円/m³、スギ加工板(グリーン材) 東2,800円、(KD) 4,800円、スギヌキ(東北材) 40,000円/m³ (秋田材) 50,000円、スギ平割(プレーナー) 45,000円、同(ラフ) 43,000円/m³、ヒノキ柱角(KD)・土台角10.5cm、12.5cm 80,000円/m³、米マツ平角(KD) 68,000円/m³、米マツ割物 AD 68,000円/m³、北洋アカマツタルキ(アSEMBル単価) (S) 70,000円/m³、(P) 60,000円/m³、(バンドル単価) (S) 67,000円/m³、(P) 57,000円/m³。仕入、売りとも変わってないが、ヒノキは上昇傾向といわれている(関東)。
- ・構造材は、東海地区はヒノキの利用が高いため、スギ製材品は品薄感にも関わらず価格は現状維持。スギ小径木がチップ材に利用されるようになってから、タルキや母屋を作る丸太の確保に苦戦しているようだが、価格は変わらず。ヒノキの柱と土台は価格上昇が年内は続く見通し。米マツ製材品は仕入のコストを価格に転嫁できてない状態で、価格は年内横ばい。北洋エゾマツ、アカマツタルキは良材不足が続いているが、価格高騰にまでは至ってない(中部)。
- ・スギ間柱10.5cm幅のみ入荷減の傾向あり。ヒノキは柱、土台とも10.5cm角は年内品薄、相場上げ傾向。12cm角については変わらず(中部)。
- ・ヒノキは柱、土台とも原木不足のため値上がり。米マツは原木不足と為替の影響で値上げ(近畿)。